

香川県立保健医療大学リポジトリ

妊娠期における母親意識の構造

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-06-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 榮, 玲子 メールアドレス: 所属:
URL	https://kagawa-puhs.repo.nii.ac.jp/records/190

妊娠期における母親意識の構造

榮 玲子*

香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科

Structure of Maternal Consciousness during Pregnancy

Reiko Sakae*

Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Kagawa Prefectural College of Health Sciences

Abstract

A questionnaire survey of 107 nulliparous pregnant women was longitudinally conducted in the early, middle, and latter part of their pregnancy to grasp their maternal consciousness about awareness of becoming mothers and maternal roles toward children and elucidate the structure and characteristics of maternal consciousness. Four factors, which were termed “emotional instability,” “feeling of restriction,” “sense of one’s own growth/sense of children for children’s sake,” and “sense of affirmation of mother and child care,” were noted in all parts of pregnancy through factor analysis. The “emotional instability,” which is the first factor with large explanatory effect and represents feelings toward physical and mental pains caused by pregnancy in daily life, was found in any part of pregnancy. The explanatory effects of “sense of one’s own growth/ sense of children for children’s sake,” “sense of affirmation of mother and child care,” and “feeling of restriction” varied with each pregnant period. This might reflect that maternal consciousness about attitude of acceptance of becoming a mother, feelings toward one’s own child, and state of mind toward child care change during their pregnancy.

Key Words: 妊婦 (pregnant woman), 母親意識 (maternal consciousness),
因子構造 (factor structure), 母親になること (becoming mother)

*連絡先: 〒761-0123 香川県木田郡牟礼町大字原281-1 香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科 榮 玲子

*Correspondence to: Reiko Sakae, Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Kagawa Prefectural College of Health Sciences, 281-1 Hara, Mure-cho, Kita-gun, Kagawa, 761-0123, Japan

緒 言

妊娠は女性の人生の中での重要な出来事であり、身体的変化に適応するだけでなく、母親になるという課題にも適応しなければならない。課題への適応には、妊娠前の単一体であった個人としての意識が、女性から母親へと変容し、子とともにある意識へと変化するという母親の心理的变化のあることが報告されている¹⁾。この心理的变化は、母親になるという危機の克服と現実への適応の過程であり、妊娠による身体の変化や胎動がその適応の過程を促進させると言われる²⁾。また、妊娠初期における女性の妊娠の受容が、胎児への愛着形成に影響する要因であることも明らかになっている³⁾。一方では、妊娠期の親になる過程を中心とした適応への失敗は、その後の産褥・育児の経過の中で精神的問題を引き起こすという報告もある⁴⁾。これらのことから、妊娠した女性がどのような意識をもち妊娠期を過ごしているのか、妊娠期における母親意識を明らかにすることが母親になっていく過程における看護者の重要な課題であると考えられる。しかし、母親としての役割行動や母親の生きがい観、育児観などに関する年代的視野からみた知見の報告はあるものの、母親になる過程に対する基礎的データの欠如が指摘されており^{5, 6)}、母親の意識や心理的变化を縦断的に研究したものは少ない。

そこで、妊娠期にある女性を対象として、妊娠初期、中期、末期の母親意識に関する縦断的調査を行い、母親意識の構造は妊娠経過とともに変容するのか、その実態を分析し特徴を明らかにすることを目的とした。

なお、母親意識とは、大日向の「女性たちが母親であることをどのように認識し、また、子どもに対する母親としての役割についていかなる意識を有しているか」を明らかにした母親意識に関する研究⁵⁾に従い、今回は、母親になることの認識や子どもに対する母親としての役割についての意識と定義した。

方 法

1. 対象

対象は、出産経験や育児の経験、子どもとの関係が母親意識に影響する可能性のあることから、初めて子どもをもつ出産経験のない妊婦とした。その選択基準は、既婚者で夫と同居中、産科的異

常および合併症のないローリスクの妊婦とした。調査に協力の得られた産婦人科医院3施設で、平成14年11月から15年4月までの間に妊娠確定診断を受けた出産経験のない妊婦のうち、継続調査に協力の得られた107名を対象とした。

2. 調査期間

平成14年11月～平成15年10月

3. 調査内容

対象および夫の年齢や家族構成、妊娠週数等の基礎的情報のほか、母親意識に関する質問項目である。

母親意識に関する調査は、先行研究^{5, 7)}での質問項目を参考に、母親であることに対する受容の姿勢、子どもに対する感情、育児に対する気持ち、日常生活などの視点から構成した40項目を作成し、「全く違う」(1点)から「全くそうである」(5点)までの5段階評定とした。

4. 調査方法

本研究は出産経験のない妊婦を対象とした縦断的調査であり、妊娠の確定診断を受けた対象に妊娠初期、妊娠中期、妊娠末期の計3回、自記式質問紙調査を実施した。調査にあたり、妊娠確定後の外来受診時の待ち時間を利用し依頼書により研究主旨、倫理的配慮について説明した。依頼書には研究目的や方法、プライバシーの保護、研究協力は任意であること等の倫理的配慮について明記した。研究協力への同意が得られた後に妊娠初期の調査票を手渡し、留置法にて郵送での回答を依頼した。以後の継続調査は、郵送にて随時調査票を送付し、回答を得た。

5. 分析方法

統計解析には、統計ソフトSPSS12.0J for Windowsを用い、主要変数の記述統計、因子分析(主因子法、プロマックス回転)、信頼性分析(Cronbach's α 係数からみた内的整合性)を行った。

6. 倫理的配慮

研究対象者には、研究の概要、プライバシーの保護、研究協力は任意であることを依頼書にて口頭で説明し同意を得た。また、研究協力の有無により妊婦健康診査やケアを受けるうえでの不利益を被らないこと、収集したデータは研究目的以外では使用しないことを説明した。

結 果

1. 対象の背景

対象となった妊婦は107名で、妊娠各時期の週数は、初期 11.3 ± 2.1 週（8～15週）、中期 23.6 ± 1.8 週（18～27週）、末期 34.5 ± 1.5 週（32～39週）であった。妊婦の平均年齢は 29.0 ± 4.5 歳（21～40歳）、夫の平均年齢は 30.8 ± 5.5 歳（20～50歳）で、核家族83.2%（89名）、拡大家族16.8%（18名）、家族数は 2.3 ± 1.1 人であった（表1）。

表1 対象の背景

n=107	
年 齢（平均±SD）	29.0±4.5歳
就労状況	
就 労	66(61.7%)
非 就 労	41(38.3%)
夫の年齢（平均±SD）	30.8±5.5歳
家族形態	
核 家 族	89(83.2%)
複合家族	18(16.8%)
家 族 数（平均±SD）	2.3±1.1人

2. 母親意識の構造

妊娠初期、中期、末期の各期で、それぞれ主要変数の記述統計、因子分析、信頼性分析を行った。

妊娠初期における母親意識の構造を表2に示した。肯定の度合いが最も高いのは「23.子どもはいい」といし」 4.51 ± 0.63 であった。妊娠初期の因子分析では、固有値1.00以上、累積寄与率41.34%、因子負荷量4.00以上を基準に解釈し、4因子を抽出した。Cronbach's α 係数は0.714であった。第Ⅰ因子は「31.なんとなく気分がのらないことが多い」、「35.気持ちが落ち着かない」など14項目で『不安定感』と命名した（ α 係数=0.869）。第Ⅱ因子は「7.母親になると自分の表情は豊かになる」、「26.子どもに一番の関心がある」など12項目で、『自己成長感・子ども至上感』と命名した（ α 係数=0.810）。第Ⅲ因子は「40.母親であることが好きである」、「1.育児は好きだ」など8項目で『母親・育児肯定感』と命名した（ α 係数=0.817）。第Ⅳ因子は「8.睡眠不足になり考えがまとまらなくなる」、「25.自分の関心が子どもばかりに向いて視野が狭くなる」など6項目で『制約感』と命名した（ α 係数=0.750）。

妊娠中期における母親意識の構造を表3に示した。肯定の度合いが最も高いのは「23.子どもはいい」といし」 4.61 ± 0.50 であった。妊娠中期の因子

分析では、固有値1.00以上、累積寄与率42.73%、因子負荷量4.00以上を基準に解釈し、4因子を抽出した。Cronbach's α 係数は0.716であった。第Ⅰ因子は「31.なんとなく気分がのらないことが多い」、「35.気持ちが落ち着かない」など12項目で『不安定感』と命名した（ α 係数=0.858）。第Ⅱ因子は「40.母親であることが好きである」、「1.育児は好きだ」など9項目で『母親・育児肯定感』と命名した（ α 係数=0.842）。第Ⅲ因子は「19.子どものためなら何でもできる」、「20.子どもこそ生きがいである」など12項目で、『自己成長感・子ども至上感』と命名した（ α 係数=0.821）。第Ⅳ因子は「21.子どものために活動が制限されてつまらない」、「9.子どもがいると自分の思いどおりにできない」など8項目で『制約感』と命名した（ α 係数=0.818）。

妊娠末期における母親意識の構造を表4に示した。肯定の度合いが最も高いのは「23.子どもはいい」といし」 4.53 ± 0.55 であった。妊娠末期の因子分析では、固有値1.00以上、因子負荷量4.00以上、累積寄与率46.59%を解釈し、4因子を抽出した。Cronbach's α 係数は0.758であった。第Ⅰ因子は「35.気持ちが落ち着かない」、「31.なんとなく気分がのらないことが多い」など12項目で『不安定感』と命名した（ α 係数=0.848）。第Ⅱ因子は「1.育児は好きだ」、「40.母親であることが好きである」など10項目で『母親・育児肯定感』と命名した（ α 係数=0.872）。第Ⅲ因子は「12.自分は妻として適していない」、「9.子どもがいると自分の思いどおりにできない」など10項目で『制約感』と命名した（ α 係数=0.866）。第Ⅳ因子は「7.母親になると自分の表情は豊かになる」、「16.母親であることに充実感を感じる」など8項目で、『自己成長感・子ども至上感』と命名した（ α 係数=0.752）。

3. 因子構造の特徴

妊娠初期、中期、末期に共通する因子構造としては、『不安定感』がいずれの時期にも共通して説明力の大きい第Ⅰ因子で見出されたことである。この『不安定感』を構成する変数として、「31.なんとなく気分がのらないことが多い」、「35.気持ちが落ち着かない」、「26.やる気が起きなくなった」、「13.毎日なんとなくイライラする」、「29.我慢していることが多い」、「36.何を考えているのかわからなくなることがある」、「14.気分がふさいで人と話すのがいやになっている」、「24.か

表2 妊娠初期における母親意識の構造

n=107

項	目	因子負荷量				共通性	平均値	標準偏差
		I	II	III	IV			
I 不安定感 (14項目, $\alpha=0.869$)								
31.	なんとなく気分がのらないことが多い	0.832	-0.379	-0.274	0.278	0.696	2.82	0.98
35.	気持ちが落ち着かない	0.823	-0.364	-0.229	0.301	0.690	2.34	0.92
28.	やる気が起きなくなった	0.654	-0.507	-0.226	0.383	0.520	2.52	1.04
13.	毎日なんとなくイライラする	0.628	-0.214	-0.260	0.203	0.415	2.41	1.07
29.	我慢していることが多い	0.627	-0.280	-0.125	0.329	0.438	2.66	0.98
36.	何を考えているのかわからなくなることがある	0.605	-0.254	-0.109	0.233	0.390	1.99	0.88
14.	気分がふさいで人と話すのがいやになっている	0.577	-0.287	-0.251	0.164	0.336	1.86	0.92
22.	気分転換できない	0.551	-0.500	-0.415	0.418	0.417	2.26	0.91
16.	母親であることに充実感を感じる	-0.542	0.525	0.480	-0.314	0.413	3.93	0.86
24.	からだが疲れている	0.531	-0.297	-0.271	0.278	0.295	3.13	0.98
37.	どこことなく体がスッキリしない	0.505	-0.266	-0.237	0.379	0.306	3.42	1.04
27.	自分の思うとおりに毎日の生活をしている	-0.490	0.388	0.288	-0.113	0.276	3.42	1.00
15.	自分は女性に生まれてきてよかった	-0.432	0.191	0.269	-0.119	0.210	4.03	0.97
3.	毎日なにかものたりない	0.412	-0.201	-0.281	0.364	0.227	2.45	1.03
II 自己成長感・子ども至上感 (12項目, $\alpha=0.810$)								
7.	母親になると自分の表情は豊かになる	-0.512	0.690	0.409	-0.309	0.516	4.17	0.68
26.	子どもに一番の関心がある	-0.219	0.657	0.294	-0.096	0.460	3.55	0.97
20.	子どもこそ生きがいである	-0.334	0.657	0.383	0.161	0.597	3.46	1.01
19.	子どものためなら何でもできる	-0.354	0.640	0.284	-0.013	0.458	4.06	0.88
21.	子どものために活動が制限されてつまらない	0.310	-0.609	-0.440	0.584	0.552	2.38	0.91
33.	子どもよりも自分に関心がある	0.263	-0.576	-0.271	0.303	0.361	2.32	0.87
4.	母親になると気持ちが安定して落ち着く	-0.269	0.549	0.489	-0.210	0.351	3.64	0.83
5.	母親になると自分はすてきな女性になる	-0.287	0.540	0.525	-0.299	0.370	3.59	0.77
30.	母親になると世間から取り残される	0.331	-0.516	-0.376	0.297	0.294	2.23	1.04
11.	母親になると人間的に成長できる	-0.166	0.512	0.222	-0.176	0.281	4.37	0.69
23.	子どもはいい	-0.329	0.507	0.346	-0.264	0.275	4.51	0.63
6.	子どもができると夫との会話が少なくなる	0.144	-0.406	-0.169	0.118	0.253	1.73	0.75
III 母親・育児肯定感 (8項目, $\alpha=0.817$)								
40.	母親であることが好きである	-0.412	0.517	0.774	-0.246	0.662	3.75	0.77
1.	育児は好きだ	-0.321	0.492	0.767	-0.334	0.596	3.69	0.82
39.	育児に自信がある	-0.158	0.228	0.719	-0.384	0.596	2.77	0.87
18.	育児は嫌いだ	0.162	-0.292	-0.682	0.313	0.493	2.08	0.97
34.	育児は楽しい	-0.259	0.467	0.667	-0.457	0.512	3.77	0.90
12.	自分は妻として適していない	0.548	-0.443	-0.554	0.181	0.450	2.39	0.88
38.	母親として活動しているときが自分らしいと思う	-0.350	0.448	0.536	-0.062	0.364	3.17	0.76
17.	自分は母親として適していない	0.377	-0.333	-0.456	0.315	0.268	2.38	0.84
IV 制約感 (6項目, $\alpha=0.750$)								
8.	睡眠不足になり考えがまとまらなくなる	0.360	-0.252	-0.327	0.732	0.554	2.80	1.07
25.	自分の関心が子どもばかりに向いて視野が狭くなる	0.321	-0.099	-0.233	0.572	0.376	2.65	0.96
9.	子どもがいると自分の思いどおりにできない	0.374	-0.414	-0.390	0.572	0.403	3.15	1.04
2.	子どもができると楽しみや趣味がもてない	0.261	-0.503	-0.337	0.553	0.435	2.34	0.88
10.	育児は苦しい	0.192	-0.398	-0.492	0.540	0.418	2.80	1.03
32.	毎日同じことを繰り返している	0.367	-0.152	-0.243	0.432	0.257	3.28	1.14
固有値		10.46	2.77	1.99	1.32			
寄与率(%)		26.15	6.93	4.96	3.30			
累積寄与率(%)		26.15	33.08	38.04	41.34			

表3 妊娠中期における母親意識の構造

n=107

項	目	因子負荷量				共通性	平均値	標準偏差
		I	II	III	IV			
I 不安定感 (12項目, $\alpha=0.858$)								
31.	なんとなく気分がのらないことが多い	0.774	-0.318	-0.309	0.456	0.599	2.46	0.86
35.	気持ちが落ち着かない	0.756	-0.293	-0.309	0.350	0.582	2.12	0.85
13.	毎日なんとなくイライラする	0.703	-0.341	-0.155	0.273	0.551	2.28	1.00
37.	どことなく体がスッパリしない	0.690	-0.219	-0.302	0.502	0.504	2.81	1.05
28.	やる気が起きなくなった	0.618	-0.151	-0.416	0.453	0.466	2.27	0.80
29.	我慢していることが多い	0.596	-0.296	-0.183	0.378	0.370	2.56	0.99
36.	何を考えているのかわからなくなることがある	0.592	-0.041	-0.172	0.329	0.399	2.05	0.96
3.	毎日なにかものたりない	0.565	-0.300	-0.183	0.403	0.342	2.39	0.91
14.	気分がふさいで人と話すのがいやになっている	0.524	-0.193	-0.102	0.180	0.304	1.68	0.81
27.	自分の思うとおりに毎日の生活をしている	-0.486	0.346	0.234	-0.171	0.295	3.49	0.96
24.	からだが疲れている	0.429	-0.144	-0.164	0.257	0.186	3.00	1.01
6.	子どもができると夫との会話が少なくなる	0.418	-0.350	-0.326	0.326	0.212	1.73	0.79
II 母親・育児肯定感 (9項目, $\alpha=0.842$)								
40.	母親であることが好きである	-0.360	0.807	0.596	-0.355	0.709	3.76	0.77
1.	育児は好きだ	-0.322	0.742	0.420	-0.442	0.573	3.68	0.80
18.	育児は嫌いだ	0.412	-0.706	-0.478	0.430	0.537	2.05	0.85
34.	育児は楽しい	-0.422	0.699	0.365	-0.512	0.548	3.83	0.82
17.	自分は母親として適していない	0.456	-0.698	-0.409	0.480	0.539	2.28	0.78
39.	育児に自信がある	-0.140	0.675	0.281	-0.237	0.476	2.85	0.82
12.	自分は妻として適していない	0.427	-0.573	-0.389	0.221	0.408	2.29	0.89
5.	母親になると自分はすてきな女性になる	-0.307	0.562	0.475	-0.293	0.370	3.58	0.76
4.	母親になると気持ちが安定して落ち着く	-0.219	0.510	0.431	-0.264	0.305	3.61	0.76
III 自己成長感・子ども至上感 (11項目, $\alpha=0.821$)								
19.	子どものためなら何でもできる	-0.264	0.409	0.738	-0.320	0.550	3.95	0.87
20.	子どもこそ生きがいである	-0.139	0.362	0.677	-0.168	0.493	3.47	0.96
26.	子どもに一番の関心がある	-0.107	0.372	0.648	-0.207	0.460	3.57	0.92
16.	母親であることに充実感を感じる	-0.274	0.579	0.627	-0.289	0.497	4.09	0.74
7.	母親になると自分の表情は豊かになる	-0.421	0.332	0.624	-0.368	0.426	4.24	0.71
30.	母親になると世間から取り残される	0.532	-0.438	-0.609	0.552	0.509	2.09	0.92
33.	子どもよりも自分に関心がある	0.485	-0.302	-0.516	0.512	0.403	2.42	0.76
38.	母親として活動しているときに自分らしいと思う	-0.169	0.508	0.513	-0.140	0.385	3.12	0.70
23.	子どもはいとしい	-0.217	0.270	0.472	-0.212	0.225	4.61	0.50
11.	母親になると人間的に成長できる	-0.416	0.168	0.424	-0.269	0.267	4.34	0.60
15.	自分は女性に生まれてきてよかった	-0.096	0.323	0.415	-0.234	0.191	4.19	0.77
IV 制約感 (8項目, $\alpha=0.818$)								
21.	子どものために活動が制限されてつまらない	0.442	-0.378	-0.540	0.759	0.634	2.33	0.73
9.	子どもがいると自分の思いどおりにできない	0.263	-0.362	-0.173	0.659	0.490	3.06	1.03
10.	育児は苦しい	0.421	-0.451	-0.292	0.653	0.468	2.65	1.03
8.	睡眠不足になり考えがまとまらなくなる	0.379	-0.298	-0.184	0.613	0.392	2.86	0.90
2.	子どもができると楽しみや趣味がもてない	0.399	-0.283	-0.306	0.580	0.346	2.52	0.88
25.	自分の関心が子どもばかりに向いて視野が狭くなる	0.193	-0.092	-0.234	0.554	0.353	2.50	0.87
22.	気分転換できない	0.482	-0.353	-0.436	0.529	0.365	2.27	0.88
32.	毎日同じことを繰り返している	0.460	-0.345	-0.086	0.498	0.363	3.28	1.07
固有値		10.86	3.15	1.60	1.46			
寄与率(%)		27.15	7.89	4.02	3.66			
累積寄与率(%)		27.15	35.04	39.07	42.73			

表4 妊娠末期における母親意識の構造

n=107

項	目	因子負荷量				共通性	平均値	標準偏差
		I	II	III	IV			
I 不安定感 (12項目, $\alpha=0.848$)								
35.	気持ちが落ち着かない	0.802	-0.403	0.594	-0.357	0.665	2.27	0.88
31.	なんとなく気分がのらないことが多い	0.793	-0.421	0.545	-0.253	0.642	2.54	0.99
13.	毎日なんとなくイライラする	0.742	-0.266	0.490	-0.342	0.584	2.06	0.97
28.	やる気が起きなくなつた	0.728	-0.389	0.396	-0.290	0.535	2.32	0.94
37.	どことなく体がスッキリしない	0.664	-0.505	0.365	-0.191	0.511	3.07	1.07
36.	何を考えているのかわからなくなることがある	0.646	-0.250	0.469	-0.284	0.446	2.05	0.97
14.	気分がふさいで人と話すのがいやになっている	0.644	-0.240	0.241	-0.350	0.481	1.79	0.78
29.	我慢していることが多い	0.631	-0.258	0.353	-0.044	0.443	2.66	0.97
24.	からだが疲れている	0.626	-0.372	0.349	-0.219	0.402	2.99	1.09
3.	毎日なにかものたりない	0.605	-0.453	0.586	-0.206	0.463	2.32	0.92
27.	自分の思うとおりに毎日の生活をしている	-0.557	0.260	-0.275	0.256	0.322	3.57	0.87
32.	毎日同じことを繰り返している	0.516	-0.365	0.481	-0.153	0.327	3.28	1.06
II 母親・育児肯定感 (10項目, $\alpha=0.872$)								
1.	育児は好きだ	-0.394	0.809	-0.401	0.416	0.659	3.73	0.80
40.	母親であることが好きである	-0.465	0.714	-0.461	0.564	0.589	3.82	0.71
34.	育児は楽しい	-0.414	0.713	-0.435	0.418	0.524	3.86	0.65
18.	育児は嫌いだ	0.483	-0.695	0.511	-0.460	0.535	2.03	0.85
5.	母親になると自分はすてきな女性になる	-0.355	0.656	-0.504	0.522	0.524	3.68	0.77
17.	自分は母親として適していない	0.533	-0.650	0.575	-0.498	0.541	2.20	0.73
4.	母親になると気持ちが安定して落ち着く	-0.384	0.628	-0.489	0.579	0.523	3.62	0.80
39.	育児に自信がある	-0.205	0.627	-0.287	0.160	0.423	2.92	0.79
38.	母親として活動しているときに自分らしいと思う	-0.378	0.626	-0.338	0.503	0.456	3.26	0.69
20.	子どもこそ生きがいである	-0.312	0.541	-0.170	0.537	0.447	3.46	0.96
III 制約感 (10項目, $\alpha=0.866$)								
12.	自分は妻として適していない	0.478	-0.550	0.694	-0.352	0.531	2.23	0.87
9.	子どもがいると自分の思いどおりにできない	0.402	-0.516	0.676	-0.107	0.550	2.94	0.96
8.	睡眠不足になり考えがまとまらなくなる	0.597	-0.499	0.669	-0.188	0.545	2.71	1.00
21.	子どものために活動が制限されてつまらない	0.358	-0.443	0.660	-0.409	0.480	2.34	0.79
25.	自分の関心が子どもばかりに向いて視野が狭くなる	0.289	-0.204	0.656	-0.076	0.485	2.54	0.83
22.	気分転換できない	0.440	-0.306	0.649	-0.422	0.470	2.22	0.88
2.	子どもができると楽しみや趣味がもてない	0.425	-0.350	0.639	-0.354	0.424	2.33	0.88
30.	母親になると世間から取り残される	0.501	-0.446	0.633	-0.404	0.448	2.13	0.95
10.	育児は苦しい	0.377	-0.467	0.540	-0.138	0.362	2.53	1.08
6.	子どもができると夫との会話が少なくなる	0.258	-0.152	0.446	-0.431	0.318	1.77	0.75
IV 自己成長感・子ども至上感 (8項目, $\alpha=0.752$)								
7.	母親になると自分の表情は豊かになる	-0.287	0.318	-0.466	0.698	0.551	4.10	0.65
16.	母親であることに充実感を感じる	-0.305	0.574	-0.328	0.601	0.480	4.08	0.75
11.	母親になると人間的に成長できる	-0.479	0.317	-0.373	0.584	0.422	4.31	0.55
19.	子どものためなら何でもできる	-0.292	0.479	-0.215	0.529	0.366	4.01	0.86
33.	子どもよりも自分に関心がある	0.425	-0.256	0.390	-0.516	0.347	2.29	0.70
23.	子どもはいいという	-0.184	0.276	-0.154	0.515	0.273	4.53	0.55
26.	子どもに一番の関心がある	0.009	0.190	0.008	0.494	0.311	3.59	0.93
15.	自分は女性に生まれてきてよかった	-0.229	0.344	-0.246	0.462	0.237	4.27	0.73
固有値		12.59	2.88	1.75	1.41			
寄与率(%)		31.47	7.21	4.36	3.54			
累積寄与率(%)		31.47	38.68	43.05	46.59			

らだが疲れている」,「37.どことなく体がスッカリしない」,「27.自分の思うとおりに毎日の生活をしている」,「3.毎日なにかものたりない」の11項目はいずれの時期にも含まれていた。また,11項目の変数のうち,「31.なんとなく気分がのらないことが多い」と「35.気持ちが落ち着かない」の2変数は,妊娠各期で0.832~0.756と高い因子負荷量を示した。

見出された4因子のうち『自己成長感・子ども至上感』,『母親・育児肯定感』,『制約感』の3因子は,妊娠初期,中期,末期の各時期で変動していた。『自己成長感・子ども至上感』は,妊娠初期では第Ⅱ因子,中期では第Ⅲ因子,末期では第Ⅳ因子で見出され,妊娠経過とともに説明力の小さい因子となった。『母親・育児肯定感』は,妊娠初期では第Ⅲ因子であったが,中期と末期では説明力の大きい第Ⅱ因子で見出された。『制約感』は,妊娠初期と中期で説明力の一番小さい第Ⅳ因子で,末期では第Ⅲ因子で見出された。

考 察

母親意識の構造は,妊娠初期,中期,末期の各期とも4因子から構成されていた。4因子は,日常生活で感じる不安定な気分や落ち着かない気持ち,母親となり子どもができることによる負担を感じる否定的な意識を示す『不安定感』と『制約感』,母親になることから自己の人間としての成長感や子どもへの関心,育児への肯定的な意識を示す『自己成長感・子ども至上感』と『母親・育児肯定感』であった。久坂ら⁸⁾は,子どもの誕生を契機とした親となる意識として,自己の人間としての成長感,子どもの将来を考え親となっていく役割意識,親となっていくことによる制約感の3つの側面が存在することを報告している。本研究の対象は妊婦であるが,妊娠して子どもを産み育てることを受容する意識や親になることで自己の成長を意識するだけでなく,妊娠期からすでに親となることでの負担を感じる意識の存在が示唆された。しかし,いずれの妊娠時期においても「23.子どもはいい」といふ肯定的度合いが最も高く,まだ見ぬわが子へのいとしさという肯定的な気持ちは変わらないことが示された。

妊娠期における母親意識の因子構造についてみると,その特徴の一つは,妊娠期のいずれの時期にも,説明力の大きい第Ⅰ因子で日常生活において感じる不安定な気分や落ち着かない気持ち,妊娠に伴う身

体的・精神的苦痛などに対する気持ちを示す『不安定感』が見出されたことである。また,説明力の大きい因子である『不安定感』を構成する変数のうち,11項目は妊娠各期のいずれの時期にも常に含まれる変数であり,「31.なんとなく気分がのらないことが多い」と「35.気持ちが落ち着かない」の2変数は,0.75以上の高い因子負荷量を示した。分娩に直面することにより情緒的に不安定な状態が作り出され,妊娠8~9ヶ月の初産婦に著明であることや情緒不安定の尺度であるいらいら,腹立ち,気分の変動が褥婦に比べ妊娠末期の妊婦に高いことが報告されている^{9,10)}。今回の結果から,第一に,妊娠末期だけでなく妊娠初期より『不安定感』が説明力の大きい第Ⅰ因子で見出されたことから,妊娠初期から妊娠末期まで持続的に情緒的な不安定さを強く感じているという実態が明らかになった。妊娠という慣れない生活を始め,妊娠という状況への適応や経験のない出産への不安から,安定しない気分や落ち着かないという気持ちをもつことにより,情緒の不安定さを生じていることがうかがえる。また,少子化や核家族化に伴い,母親になる妊婦の多くは子どもの少ない核家族で育ち,乳幼児との接触がないまま母親になっているという現状があり¹¹⁾,子どもが生まれ子どもと接することへの心配や不安が意識に影響したとも考えられる。

第二に,『自己成長感・子ども至上感』,『母親・育児肯定感』,『制約感』の3因子は,妊娠初期,中期,末期の各時期でそれぞれ説明力が変動したことである。『自己成長感・子ども至上感』は妊娠経過とともに説明力の小さい因子となり,逆に,『母親・育児肯定感』と『制約感』では説明力の大きい因子となった。『母親・育児肯定感』は,初期では第Ⅲ因子であったが,中期・末期では第Ⅱ因子となり,『制約感』は,初期・中期では説明力の一番小さい第Ⅳ因子から,末期では第Ⅲ因子となった。このことから,妊娠経過とともに子どもを産み育てることを受容する気持ちが高まる反面,未知の経験である母親になることや育児に対する不安や分娩が近づいた妊娠末期では子どもができることによる制約感がより身近に感じられるという意識の変化のあることが推察された。

今回,妊娠期における母親意識の構造を分析した結果,妊娠期を縦断的に調査することにより,妊娠経過とともに母親意識が変化するものと変化しないものがあることが示された。妊娠期の母親への支援を検討するためには,母親意識が何によって変化する

るのか、その変化に関連する具体的な要因を探索し、関係性をみることが今後の課題である。

結 論

本調査は、出産経験のない妊娠期にある女性107名を対象に、母親になることの認識や子どもに対する母親としての役割についての母親意識を縦断的に調査し、妊娠期における母親意識の構造とその特徴を明らかにした。因子分析を行った結果、母親意識の構造は妊娠初期、中期、末期の各期とも『不安定感』、『制約感』、『自己成長感・子ども至上感』、『母親・育児肯定感』の4因子が抽出された。この因子構造の特徴は、第一に、妊娠期のいずれの時期にも、説明力の大きい第Ⅰ因子で日常生活での妊娠に伴う身体的・精神的苦痛などに対する気持ちを示す『不安定感』が見出されたことである。第二に、『自己成長感・子ども至上感』、『母親・育児肯定感』、『制約感』の3因子は、妊娠初期、中期、末期の各時期でそれぞれ説明力が変動し、母親であることに対する受容の姿勢、子どもに対する感情、育児に対する気持ちに関する母親意識は、妊娠期の母親になる過程において変化していることが明らかになった。

謝 辞

今回の調査を実施するにあたり、快くご承諾くださいました産婦人科医院の院長はじめスタッフの皆さま、長期にわたり調査にご協力くださいました対象者の皆さまに感謝申し上げます。

文 献

- 1) 蘭香代子 (1992) 母親になるということ. 助産婦雑誌 46: 191-199.
- 2) 仁平義明 (1988) 妊娠・出産・母性一心の変化とその意味, “母性 ころろ・からだ・社会” (繁多進, 大日向雅美編), 新曜社, 東京, p53-74.
- 3) 榮玲子 (2004) 妊婦の胎児への愛着形成に影響する要因の検討. 日本助産学会誌 18 (1): 49-55.
- 4) 丸山知子 (1988) 褥婦の心配に関する意識調査. 日本助産学会誌 2 (1): 32-41.
- 5) 大日向雅美 (1998) “母性の研究”, 川島書店, 東京, p 7-169.
- 6) 花沢成一 (1992) “母性心理学”, 医学書院, 東京, p 6-12.
- 7) 松村恵子 (1999) “母性意識の構造と発達”, 真興交易医書出版部, 東京, p59-157.
- 8) 久坂ヤス子, 澤田忠幸, 豊田ゆかり, 遠山尚子, 原美香子, 池田澄子 (1999) 親となる意識の形成. 愛媛県立医療技術短期大学紀要 12: 37-43.
- 9) 橋本正淑, 郷久鉞二 (1994) “女性の心身医学”, 南山堂, 東京, p217.
- 10) 吉田安子, 丸山知子, 杉山厚子, 須藤桃代 (2001) 妊娠期・出産後2年間の女性の心理・社会的状態に関する調査 第2報 産褥早期の心理・社会的状態. 日本女性心身医学会雑誌 6 (1): 100-107.
- 11) 榊原洋一 (2002) 育児不安. こころの科学 103: 29-35.

受付日 2004年10月29日